

第24回地域医療・介護研究会 レポート

日時：2016年11月25日(金)18:30~20:00 晴
場所：ちどりビル2F 参加者：54名

今回のテーマは『透析患者の在宅療養支援』でした。千鳥橋病院透析室と訪問看護ステーションわかばに事例報告してもらいました。当院寺井明日香医師にも講義頂き、透析患者の療養の上で大切なポイントなどを学び、グループディスカッションで課題を深めました。終了後企画で、寺井医師が透析室を案内しました。



雲田 臨床工学技士

<透析とは... 千鳥橋病院(透析室)雲田千穂 臨床工学技士>

透析では、老廃物を取り除き、余分な水分を取り除き、ナトリウムやカリウムなどの電解質が過剰であれば除去し、不足していれば補います。1回4~5時間、週3回が基本です。

透析患者さんに気をつけて欲しいことは、

食事療法：十分なたんぱく質と必要なカロリーを摂る。カリウムの制限(果物、生野菜、いも類に多い、栄養ドリンクにも要注意)。塩分の制限(むくみ・高血圧の原因となり心臓へ負担。水分管理が難しくなる)。

シャント(透析の為に動脈と静脈をつなぎ合わせた血管)を守る：閉塞していない

か音を確認する。シャント側の腕に負担をかけない様にする。清潔に保つ(透析前手洗い・透析日の入浴を避ける)。

【Hさん(男性・60代)の事例報告 訪問看護ステーションわかば 中武晴香 看護師】

この方は30代から糖尿病があり、数年前に透析開始(週3回)。糖尿病で5回ほど入院しましたがいずれも中断(インスリン使用歴有り)。食事指導を続けましたが外食やコンビニ弁当がほとんど。多弁ですが支離滅裂さがあり、独語もあります。

在宅では弁当の空箱、飲みかけのビール等の缶が散乱しています。夕食の出る夜間透析の帰宅後も弁当やラーメンを食べています。水分は制限を超え“1日1Lは飲んでいる”と言われます。内服薬も飲み忘れが多く、今は朝1回の服用に切り替え、透析室で管理しています。連絡ノートに翌日分の内服薬を貼ってもらい、訪問時に内服を促します。

訪問サービスが介入すれば生活環境は改善されますが、本人の理解や実行力が無ければ生活全般の改善はなかなか難しく、継続的に関わっていくことが重要と考えます。

【同事例報告 千鳥橋病院透析室 吉本和代 看護師長】

この患者さんは本来1日複数回の内服が望ましいのですが、飲み忘れも多いため、上記の様に1日1回として訪問看護と連携することとしました。透析室では例えば、採血検査データを管理し、在宅スタッフと食事に関する連携を図っています。皮膚の状態を観察し、小さな傷を見逃さない様にしています(切断にならないように)。

居宅サービスとは連絡ノート活用で連携しています。各サービスでノートが分かると、あれこれ見なければならぬ為、ノートを一元化しています。サービスによって所定様式がある場合は、そのままの文書ノートに貼り付けてもらっています。ノートは検査データを受けて補助食品を勧めたり、残薬の連絡を受けたり、家族から生活状況を教えてもらったりなどに活用しています。

<最後に 千鳥橋病院腎臓内科科長・透析室医長 寺井明日香 医師>

透析治療を受ける患者さんは、それ以前にたくさん薬を飲まなければならない治療を受け、薬代が高く、中断してしまう様な方もいます。それによりまた状態が悪化し、結果透析治療に到るケースもあります。また、健全な食事を摂った経験の無い方も多いという側面もあります。若い頃から健康な食事を摂る環境に無く、食事療法の説明が伝わり難い方もいます。制度を含めた周囲の環境改善も重要に感じます。この様なことも踏まえ、継続的に医療者として向き合い、関係性を作ることが大事で、その経過で食事やアルコール、服薬管理に効果が出てくるものと考えます。在宅では、



寺井医師

- ・ どうしても食事療法ができない時は“できる範囲での援助”をお願いします。
- ・ 体重や血圧を測りながら患者さん自身の自覚を促すアセスメントをお願いします。
- ・ 服薬管理については、どうしてもそれが大切なのか一緒に説明をお願いします。



中武 看護師



吉本 看護師長